

## 霧島硫黄山における火山ガス組成連続観測結果（2020 年 1 月まで）

霧島硫黄山 H 噴気孔近傍（図 1）での、Multi-GAS による火山ガス組成連続観測結果を報告する（図 2）。2019 年 6 月に急増した  $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$  比および  $\text{SO}_2$  濃度日最大値は、ともに低下傾向にあり、2019 年春ごろの値と同程度まで回復した。これは、硫黄山下の熱水系への高温火山ガス供給率の低下を示唆する（森田ほか, 2019, 火山学会講演予稿集）。なお、1 月末より連続観測は停止しており、今夏中の復旧を予定している。

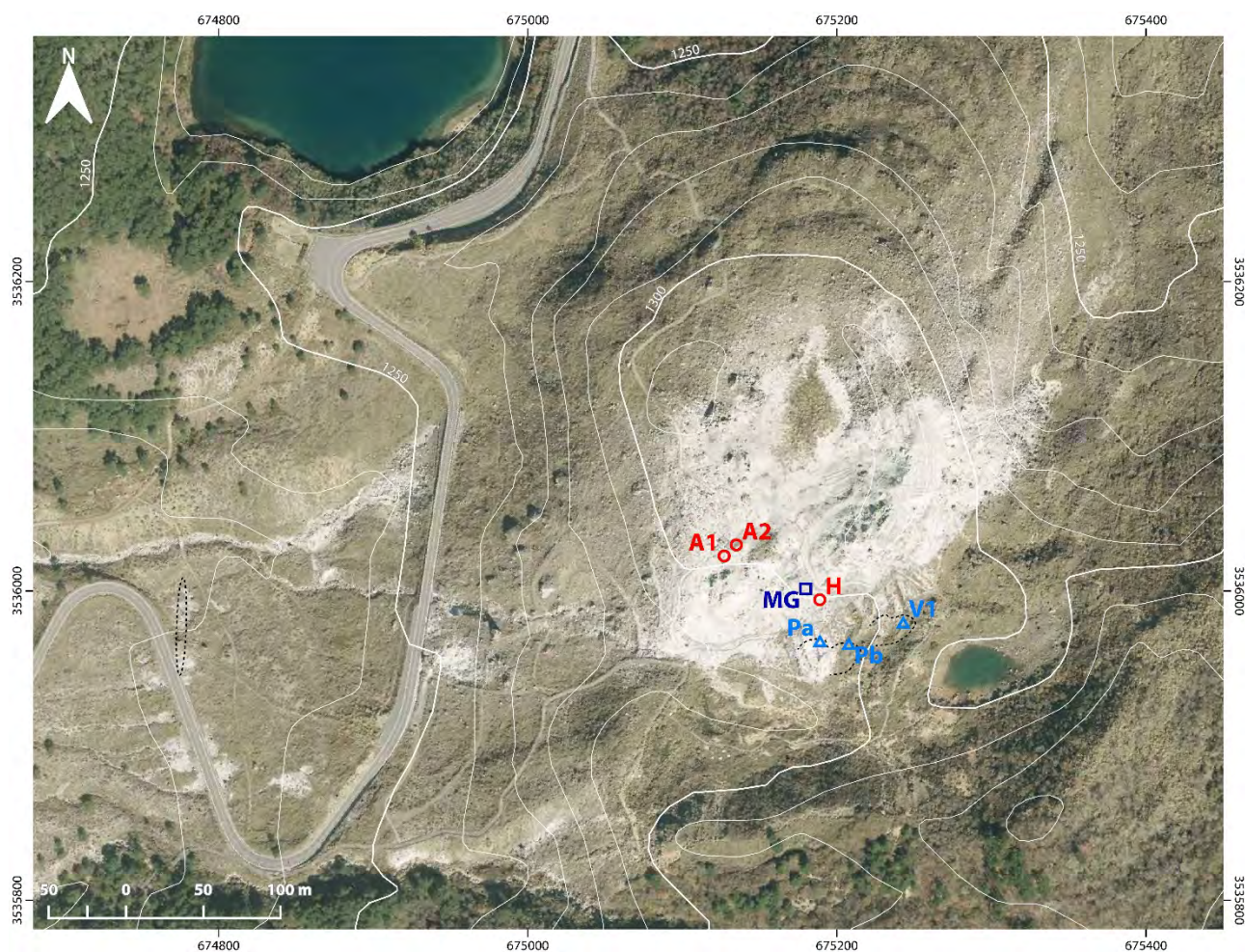


図 1 霧島硫黄山観測点および噴気孔・湯だまりの配置図。MG は連続観測点，H, A1, A2, Pa, Pb, V1 はそれぞれ噴気孔・湯だまりに対応する。背景には、国土地理院の空中写真および数値標高モデル 10m メッシュ（火山標高）を使用した。

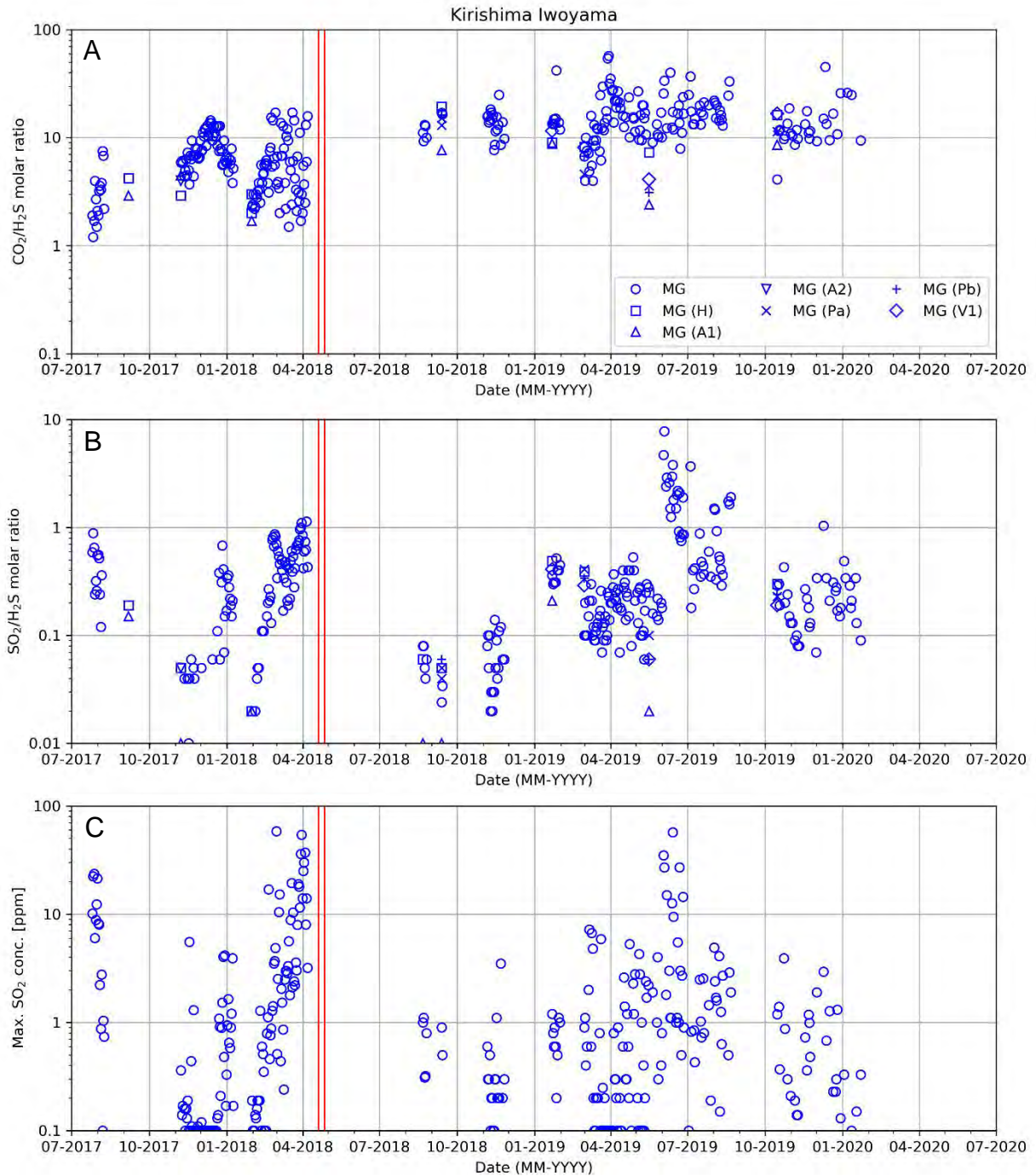


図2 霧島硫黄山火山ガス組成観測結果。それぞれ、A) CO<sub>2</sub>/H<sub>2</sub>S 比, B) SO<sub>2</sub>/H<sub>2</sub>S 比, C) SO<sub>2</sub> 濃度日最大値を示す。凡例のうち、丸印は連続観測結果、それ以外は現地観測結果（各噴気孔・湯だまりでの値）に対応する。赤の縦線は2018年4月噴火を示す。